



2024年

11月 November

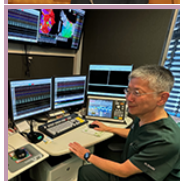
第860号



理事長・学長就任のあいさつ



【附属足立医療センター】総合防災訓練
実施報告



熾火の上に－活躍する女子医大の研究者たち
－vol.68 先進電気的心臓制御研究部門
庄田守男寄附部門教授



熾火の上に－活躍する女子医大の研究者たち
－vol.69 看護学部精神看護学 濱田由紀
教授

TOPICS

- ・ 令和6年度解剖慰霊祭を執り行いました
- ・ 第41回東京女子医科大学公開健康講座開催報告
- ・ 【医学部】令和6年度基礎系教室発表会開催報告
- ・ 東京女子医科大学看護学会第20回学術集会開催報告
- ・ 【附属八千代医療センター】臓器移植推進のグリーンライトアップを実施
- ・ 【女性医療人キャリア形成センター】YAYOIプロジェクト合同授与式を開催
- ・ 【女性医療人キャリア形成センター】看護専門領域スキルアップ研修の取り組み
- ・ 医療従事者のための頭痛講座 第41回
- ・ 教えて！！漢方&鍼灸
- ・ 専門領域看護のしごと 第37回
- ・ 患者さんからの感謝の言葉 2024年10月分
- ・ 【情報システム課】OSにはサポート期限があります！

大学からのお知らせ

- ・ 理事・評議員・監事の選任

🗨️ 就任のあいさつ

医学部

👥 定例会議

理事会
評議員会
医学部教授会
看護学部教授会
医学研究科委員会
看護学研究科委員会

📅 マンスリーニュース

医療連携・入退院支援部情報
医療安全だより
看護部だより
募金状況
今月の写真コーナー
広報室からのお知らせ
編集後記

📖 発行者

学校法人 東京女子医科大学

「大学ニュース」第860号

発行年月日 令和6年11月22日(金)

発行 学校法人 東京女子医科大学

〒162-8666東京都新宿区河田町8-1

発行責任者 山中 寿

編集 広報委員会

連絡先 広報室

電話 03-3353-8111

内線 30161～30162



大学ニュース
にアクセス
できます

理事長・学長就任のあいさつ

理事長・学長 山中 寿

このたび、10月23日から理事長・学長に就任しました山中 寿です。1983年から2019年までの37年間、本学に在籍し、附属膠原病リウマチ痛風センター所長、膠原病リウマチ内科学教授・講座主任などを歴任したのち、2019年に退職。以後の5年半は山王メディカルセンター院長、国際医療福祉大学教授として、外から東京女子医科大学を眺めてまいりました。

伝統ある本学ですが、特に過去5年間、さまざまな事柄が生じ、経営的にも危機に瀕（ひん）しています。しかしながら、外から東京女子医科大学を見ておきますと、これだけ世間から批判されている中でも、教職員の皆さまが本当に頑張っており、本学のブランドを守っていただいていることに、私は敬意と感謝を禁じえません。感動すらしております。

現在の本学においては、意見の相違もあり、足並みが揃（そろ）わないことも多いと伺っておりますが、本学の理念が「至誠と愛」であることは、全ての教職員がご存知です。きわめて誠実であること、慈しむ心。これは受診者や学生に対する基本的な心構えではあると思いますが、私は、あまねく人類全体に対するメッセージであると理解しています。全ての人々に対して「至誠と愛」を持って接する。本学で働く教職員が、他の教職員に対しても「至誠と愛」の気持ちを持って接する、これを全教職員が意識することが、新生東京女子医科大学のスタートラインになると考えます。

現在、本学で働いている教職員の皆さまは、本学の貴重な財産であり、未来に対する起爆剤です。もう一度、力を合わせて頑張ろうではありませんか。私は本学の理事長・学長として、5,700名の教職員の皆さまを誠心誠意、守っていく所存ですので、ぜひとも力をお貸しください。教職員の皆さまにご理解をお願いし、新生東京女子医科大学のために、皆さまのご協力を切にお願い申し上げます。



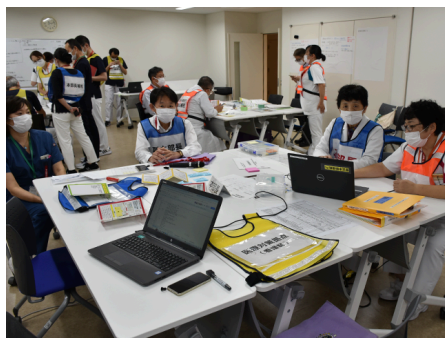
【附属足立医療センター】総合防災訓練実施報告

附属足立医療センター防災危機対策室
防火防災委員会／防災訓練ワーキンググループ

附属足立医療センターでは、10月19日（土）午前9時から午後1時まで、都心南部直下型地震を想定した防災訓練を実施しました。今回は、災害対策本部訓練、多数傷病者受入訓練、外来患者避難誘導訓練を含む、昨年に続きフルスケールでの訓練となりました。訓練は、区東北部の災害拠点病院関係の方にもご見学いただいた中、行いました。

訓練内容は、職員が多く出勤している日中帯ではなく、土曜日の外来開始前の午前6時30分を発災時刻に想定し設定しました。訓練検証項目は①MCP（医療継続計画：Medical Continuity Plan）および各部門のアクションカード検証と改訂②本部と各部署間の情報伝達③熱傷患者・新興感染症への対応④職員参集調査に基づく参集職員受付と再配置の四つを挙げました。

当日は、災害対策本部の本部長である内潟安子病院長をはじめ、約200人の病院スタッフと傷病者役として看護学部学生9名および看護専門学校生23名が参加しました。訓練は、発災後に管理当直者役の江畑典子看護師長を中心に、1階患者サポートセンターエリアに設置した暫定災害対策本部へ参集することから開始しました。被災状況や傷病者の来院状況、近隣交通機関等の情報収集や初期対応に限られた人員で行い、災害対策本部長（病院長）が病院へ到着した段階で、災害対策本部設置（本部機能の立ち上げ）、並行して外来患者避難誘導、傷病者のトリアージおよび重症者、感染症疑いのある患者の受け入れ対応と進められました。今回新たな試みとして、通常時は本院で勤務する職員が附属足立医療センターに参集するケースを想定し、検証を行いました。また、院内スマートフォンを用いてクローズドな環境で利用できるチャット（Wow Talk）を中心に情報伝達を試みました。

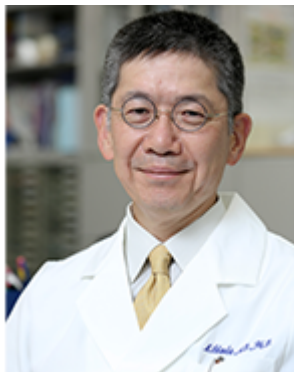


今回の訓練で得た経験と検討課題の改善に取り組み、地域災害拠点中核病院ならびに医療対策拠点として、職員一丸となって引き続き災害拠点病院機能を強化してまいります。

こちらで掲載しております役職・所属は執筆当時のものです。



熾火の上に－活躍する女子医大の研究者たち－vol.68 先進電気的心臓制御研究部門 庄田守男寄附部門教授



庄田守男

先進電気的心臓制御研究部門 寄附部門教授

Profile

学 位：博士（医学）

出身大学：東京医科歯科大学医学部

専門（分野）：不整脈、先天性心疾患

趣味やマイブーム：ロードバイク、グラベルバイク、トレイルラン

「Bench to bedside」の理念を大切にしたい臨床医になることが私の目標です。簡単に言えば、「研究は患者さんのために、科学は人類のために」ということです。

私は、医学部を卒業後すぐに本学に進み、心臓の臨床医としての道を歩み始めました。当時、DDDペースメーカーや抗頻拍ペースメーカー、カテーテルアブレーションといった革新的な治療法が登場し、私はアブレーション機器の自作・開発、心室頻拍アブレーション法の研究、臨床心臓電気生理検査機器のデジタル化、X線透視を使わないカテーテル操作法、立体心臓画像シミュレーションによる不整脈マップのリアルタイム作成などに取り組みました。当時は、今ほど厳格な倫理規定がなかったため、開発中の機器が循環器内科のカテーテル室に並び、海外の医療機関と連携しながら最先端の医療を追求することができました。特に、米国、フランス、ドイツ、イタリア、イスラエルなどの国々と連携し、講演活動やライブデモンストレーション、手技指導を行ったことが、楽しい思い出として残っています。

ここに、女子医大がリードしてきた不整脈診療の一部をご紹介します。

・頻脈性不整脈のアブレーション治療

不整脈原性右室心筋症や陳旧性心筋梗塞に伴う心室頻拍のリエントリー回路の検出基準を明らかにし、その治療成績を公表しました。また、フランスのボルドー大学と共同で心室細動のアブレーション治療法をLANCET、Circulationに報告しました。

・致死性心室性不整脈のデバイス治療

厚生労働省の班会議での経験を生かし、植込み型除細動器と心不全に対する心臓再同期療法機能を兼ね備えた新しいデバイスであるCRT-D（cardiac resynchronization therapy-defibrillator）を日本に導入しました。

・複雑先天性心疾患における不整脈のメカニズム解明と治療

心房と心室の左右関係が不一致の複雑な先天性心疾患において、房室結節が二つ存在することを臨床例で証明し、それに伴うリエントリー性頻拍のアブレーション治療法を確立しました。

・ペースングデバイスのリード抜去手術

日本で行われるリード抜去手術の全症例を登録するシステムを日本不整脈心電学会、国立循環器病研究センターと共同で構築し、世界に前例のない全手術年次報告書をJournal of Arrhythmiaに英文で公表しています。また、朝日インテック株式会社と共同開発したリード抜去デバイスは、今年度中にPMDAに申請する予定です。



最近の1、2年で開始した新しいプロジェクトとして、難治性心室性不整脈の放射線治療、心房期外収縮誘発性心房心筋症、アブレーションの新技术であるパルスフィールドアブレーション（pulsed field ablation）、不整脈関連データに対するAI（機械学習、深層学習）適用などがあります。今後も、患者さんの治療に直結する臨床研究を続けていきたいと考えています。

【熾火（おきび）とは】

“おこし火”のことですが、「激しくはないがやんわりと続く愛情・感情・優しさ、情熱・意欲」などを意味する比喩的な表現（メタファー）としても使用することができるといわれます。ここでの熾火は研究者が心に秘める熱い想いを意味し、それが火付け役となり他の研究者たちに広がっていくことを表しています。消えることのない種火。研究者の心にある消えない熱い想い。



熾火の上に－活躍する女子医大の研究者たち－vol.69 看護学部精神看護学 濱田由紀教授



濱田由紀
看護学部精神看護学 教授

Profile

学 位：博士（看護学）
出身大学：聖路加看護大学
専門（分野）：精神看護学

趣味やマイブーム：好きなアーティストはプリンスほか

博士論文は「精神障害をもつ人のリカバリーにおけるピアサポートの意味」という研究課題で学位を取得しました。精神障害を経験した人々の回復過程において、一方的に支援を受けるだけでなく、対等な立場で相互に支え合うピアサポートがどのような意味をもつのかを解釈学的に明らかにしました。精神機能の低下という疾病の特徴や強制入院制度、スティグマといった社会的構造により、精神疾患に罹患した人は医療や支援のプロセスの中でさえ、受動的な立場に置かれやすい状況があります。しかし一方で精神障害を経験しながらも力強く当事者活動・ピアサポート活動を行う人々にも出会い、ピアサポートがなげりカバリー（回復）をもたらすのか知りたいと思ったことが研究に取り組む動機でした。研究を通じて、同じ病を経験した人との出会いであるピアサポートは、精神病という画一的なイメージから自分自身の固有な人生を取り戻す契機となることが分かりました。

令和3年から福祉サービスとしてピアサポート体制加算・実施加算が新設され、障害の経験を持つピアサポーターと非当事者の専門職がどのように協働できるのか、保健医療福祉の場で試行錯誤されています。現在取り組んでいる研究の一つでは、ピアサポーターや研究者で構成される研究会で、ピアサポートの価値の明確化や支援サービスとしてのピアサポートの倫理規定、業務指針の作成を研究プロジェクトとして行っています。こうした取り組みは、当事者と研究者が対等な立場で参加する患者・市民参画（PPI；patient and public involvement）研究であり、新たな社会をつくる試みであるという熱い思いで研究メンバーはつながっています。

私たちは誰もが人生の困難を人との助け合い（ピアサポート）で乗り越え、日々の心の健康を保ち、有意義な人生を送ろうとしています。学術体系の中に、このような人々の経験による知識（experiential knowledge）を位置付け、それらを基盤に困難を持つ当事者にとって意味ある支援がどのようなものであるかを明らかにしたいという思いで、日々研究活動や教育活動に取り組んでいます。

1 (対等性・相互性)

私たちは、あなたとの対等な関係を大切にしています。

私たちは、置かれている状況が対等ではないとしても(支援者と利用者など)、人として対等な関係であることを大切にしています。そのために互いの自己開示を大切に、それぞれのペースに合わせた関係性を大切にします。

2 (共にいること・存在の肯定)

私たちは、あなたと共にいます。

あなたはひとりではありません。私たちは、今、ここで、あなたと共にいます。私たちは、一方通行にならず、あなたと伴走していきます。

3 (経験の開示・共有・蓄積)

私たちは、あなたと人生の経験を分かち合うことを大切にしています。

私たちは、「わかりあいたい」という思いを大切にしています。あなたの経験に寄り添い、あなたが何を求めているのかに心と耳を傾け、自分の経験を開示することができます。

4 (存在の肯定)

私たちは、あなたのありのままを尊重します。

あなたも私たちも、自分自身を知ることができます。たとえ病気や障害の影響で揺れ動いていても、たとえリカバリーを信じられていなくても、自身の病気や障害等を受け入れることができなくても、ありのままの存在を肯定します。

5 (当事者性)

私たちは、あなたと私たちの出発点である、困難な経験を大切にしています。

私たちは、同じような困難な経験をした立場を忘れず、わかちあうことを大切にしています。あなたの経験も、私の経験も大切にすることで互いの尊厳を大切にします。

6 (希望・創造性に満ちた未来)

私たちは、あなたと共に希望を見出し、希望を持つことを大切にします。

どんな困難があっても、あなたの未来に希望があることを信じています。私たちは、一度しかない人生を尊厳を持って生き、希望を見出すことを大切にします。私たちは、すべての人の希望と創造性にあふれた人生を大切にします。

7 (権利擁護)

私たちは、あなたの権利と尊厳を奪ったり侵したりせず、支持し、守り、大切にします。

私たちは、あなたと私の意志を尊重し、どんな小さな言葉でもすくいあげることを大切にします。私たちはあなたの望むことを大切にします。

8 (リカバリー・希望の再生)

私たちは、共にリカバリーを信じ、歩みます。

私たちは、すべての人のリカバリーを信じますが、強要しません。それぞれのリカバリーのペースを大切にします。私たちは、お互いにリカバリーの旅路について一緒に考え、共に歩み続けます。

9 (ストレングス視点^{*3})

私たちは、あなたがもっている力や可能性を信じます。

私たちは、病気や障害等ではなく、あなたが持っている個人と環境の「強み」に焦点を当てることを大切にします。私たちは、あなたと私のもつ弱さを絆にすることができ、そして、弱さは強さにもなりえることを大切にします。私たちは、互いのエンパワメントを信じ、互いの力と権利を奪うことはしません。

10 (学び合い)

私たちは、あなたとの出会いを大切に、お互いの生き方から学び続けます。

私たちは、あなたとの出会いを大切に、お互いの生き方や価値観から学び合い、あなたと共に成長していきます。

11 (メゾ^{*4}・マクロ^{*4}・変革)

私たちは、自らの経験をもって、あなたと私たちを取り巻く環境*を変革できる存在であることを信じます。 * 環境には、人、組織、サービス、地域、制度、社会等を含みます。

私たちは、私たち自らの経験をもって、権利が奪われている状況や、生きづらいつと感じる環境を、リカバリー志向に変革できる存在であることを信じます。私たちは、誰もが生き生きと生きられる社会を創ることに貢献します。

12 (マクロ・D&I^{*5})

私たちは、多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きる地域・社会を目指します。

私たちは、私たちがそうであるように、一人ひとりの多様性を認め、その多様性を尊重しあうことで、誰もが暮らしやすい地域・社会となることを信じ、目指します。



「ピアスタップが大切にしたいこと」作成過程
出典：ピアスタップの価値と役割を考える研究会

【熾火（おきび）とは】

“おこし火”のことですが、「激しくはないがやんわりと続く愛情・感情・優しさ、情熱・意欲」などを意味する比喩的な表現（メタファー）としても使用することができるといわれます。ここでの熾火は研究者が心に秘める熱い想いを意味し、それが火付け役となり他の研究者たちに広がっていくことを表しています。消えることのない種火。研究者の心にある消えない熱い想い。



令和6年度解剖慰霊祭を執り行いました

解剖慰霊祭委員長
医学部法医学分野
教授・基幹分野長 木林和彦

令和6年度東京女子医科大学解剖慰霊祭を10月3日（木）午後2時より弥生記念講堂において執り行いました。解剖慰霊祭は大学の重要な行事の一つで、本年度は令和5年4月1日から令和6年3月31日までの1年間に、本学で解剖が行われた103名の方々の慰霊を行いました。参加者はご遺族57名、ご来賓2名、学内関係者30名、医学部学生（第1・2学年）227名、看護学部学生（第2学年）96名、看護専門学校学生（2年生）84名の総勢496名でした。



令和2～5年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み学内関係者だけの縮小開催でしたが、本年度は通常開催としてご遺族にご参列いただきました。音楽部学生による校歌斉唱と解剖慰霊祭委員長の開式のことばで始まり、参加者全員が103名の御霊に黙祷を捧げました。中神朋子学長代行は式辞の中で、系統解剖、病理解剖および法医解剖について説明され、解剖と医学教育、医療、社会との関係を語られ、ご遺族へ感謝の意を表され、御霊の安らかな眠りを祈られました。

続いて、音楽部学生による慰霊の歌があり、学生を代表して医学部第2学年富田百子さんが慰霊のことばを捧げました。解剖学実習でご遺体と対面した際の畏敬の念、命の尊さを学ぶ機会を頂いたことへの感謝、研鑽（さん）を積み良き医療人になる誓いが伝えられました。肥塚直美本院病院長は挨拶の中で医学と医療における解剖の果たす役割を述べられ、御霊にご遺族への深い感謝の意を表されました。



その後、肥塚理事長とご遺族代表をはじめとする代表献花が行われ、物故者のご芳名が拝読される中、参加者一人ひとりによる献花が行われました。最後に飯嶋 睦教授による閉式のことばで参加者に謝辞が述べられ、厳粛な雰囲気の中、滞りなく終了しました。

本学教職員の皆さまのご尽力により本年度の解剖慰霊祭を滞りなく執り行いましたことをご報告申し上げます。こちらで掲載しております役職・所属は執筆当時のものです。

第41回東京女子医科大学公開健康講座開催報告

学務部学務課

今年の公開健康講座は、10月12日（土）に「肺・縦隔・胸膜腫瘍の診断・治療の最前線」をテーマとして、弥生記念講堂と動画によるWeb配信（期間限定配信：10月12～20日）のハイブリッドで開催いたしました。

講演は、呼吸器外科の神崎正人教授・基幹分野長が司会を担当され、呼吸器内科・呼吸器外科の4名の先生方よりご講演いただきました。まず初めに呼吸器内科の有村 健講師から、「最新の中皮腫診断・治療・研究」についてご講演いただきました。次いで呼吸器外科の光星翔太助教からは「肺がんの診断から外科治療まで」について、呼吸器外科の青島宏枝准講師からは「肺がんの薬物治療の最前線」について、最後に呼吸器外科の井坂珠子准教授からは「縦隔腫瘍とは？～診断と治療～」についてご講演いただきました。

昨年度に引き続き、今年度も現地開催とWeb配信を合わせたハイブリッド開催で多くの方々にご参加・ご視聴いただき、好評のうちに終了することができました。公開健康講座にご参加いただいた皆さまにとって、今回の講演が今後の療養のお役に立ちますことを心より願っております。



司会 呼吸器外科神崎正人教授・基幹分野長



上段左から有村 健講師、光星翔太助教
下段左から青島宏枝准講師、井坂珠子准教授

【医学部】令和6年度基礎系教室発表会開催報告

基礎医学系運営委員会
幹事 野原理子

基礎系教室研究発表会を10月24日（木）9時30分から12時30分まで開催しました。昨年同様にオンライン配信で実施しました。本会は、学内における基礎研究活動の相互理解と共同研究の促進を目的としています。今回は50名程度の学内研究者が参加されました。

衛生学公衆衛生学（公衆衛生学分野）の永峰大輝助教は「Health Action Process Approachモデルにおける健康行動の予測」の演題で、歯科疾患やさまざまな健康状況に関連するとされる咀嚼習慣に着目し、HAPAモデルが咀嚼習慣を説明可能なモデルであるかについての今後実施予定の研究を発表されました。統合教育学修センター（基礎科学）の石井泰雄講師は「冠状血管パターン形成における心外膜の役割～鳥類胚への遺伝子導入によるアプローチ」の演題で、遺伝子導入の手法を用いて、心外膜を起源とする間葉組織の不均一な分布が、最終的な冠状血管の分布パターンの『鋳型』として機能するとのモデルを検証した研究を発表されました。法医学の中尾賢一朗准講師は「薬物分析における高温曝露した骨の有用性検討」の演題で、体液採取が難しい焼死事例を想定し、大腿骨を高温曝露させ、大腿骨中のメタンフェタミンおよび代謝物アンフェタミン濃度を調べ分析試料としての骨の有用性を検討した研究を発表されました。総合医科学研究所の東 剣虹助教は「発作性運動原性ジスキネジア（PKD）原因遺伝子PRRT2メジャーバリエーションの機能解析」の演題で、2分子に分割が可能な低分子の深海エビ・ルシフェラーゼシステムを用いた、p.I327M変異の機能解析に関する研究を発表されました。薬理学の増田（青木）信奈子助教は「心臓線維芽細胞に発現する血管新生抑制因子の解析」の演題で、LYPD1による血管新生抑制の作用機序解明に向けた、LYPD1の機能部位や遺伝子発現制御に関する研究を発表されました。解剖学（神経分子形態学分野）の蔦池かおり助教は「網膜視細胞変性後のミュラー細胞におけるp38の役割」の演題で、ラット視細胞変性モデルのミュラー細胞におけるp38の役割について検討した研究を発表されました。病理学（人体病理学・病態神経科学分野）の有益 優助教は「SPINT1の高発現は肝線維化の増悪に関与する」の演題で、骨髄由来マクロファージが産生すると考えられる肝線維化に関連する新規因子を探索した研究を発表されました。生理学（神経生理学分野）の中山（河村）寿子准教授は「思春期の社会的隔離が体性感覚視床のシナプス結合と個体の触覚情報処理に及ぼす影響」の演題で、マウスのヒゲ感覚を大脳皮質体性感覚野に中継する視床VPM核のシナプス結合を解析対象として主に電気生理学的手法で解析した研究を発表されました。

演題は多岐にわたりましたが、研究室間で知見や技法を共有しつつ大変活発な議論が交わされました。最後に、ご登壇いただいた先生方ならびに司会の先生方、本会開催にあたりご協力いただいたスタッフの方々、そしてご参加いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。



東京女子医科大学看護学会20回学術集会開催報告

東京女子医科大学看護学会第20回学術集会
大会長 吉武久美子

10月5日（土）に開催されました東京女子医科大学看護学会第20回学術集会にご参加いただき、また、格別のご支援を賜りましたこと、誠にありがとうございました。

本学術集会は、第20回記念大会で、5年振りの対面となり弥生記念講堂にて開催されました。当日は、240名を超える皆さまにご参加いただき、活気あふれる女子医大の看護の魅力を味わっていただける学術集会となりました。参加者の皆さま、講演の方々、シンポジストの方々、交流集会での演者の方々、研究発表者の方々、座長の方々、企画委員、実行委員、ボランティアなど、学会運営を支えてくださった方々、すべての皆さまに、深く御礼申し上げます。

本学術集会は、「つなぐ力と創造する看護—これまでとこれから—」をテーマに、節目の大会となるため、これまでの本学会や教育、看護実践の歩みを振り返った上で、多様な人（世代）、領域をつなぐ場を設定し、参加者の皆さまがこれからの看護を創造する機会にしました。

看護におけるつなぐ力と創造する力について、合意形成の視点から述べた大会長講演に続いて、基調講演では、福井トシ子先生（国際医療福祉大学大学院副大学院長）にご講演いただきました。未来から現在を反射することで、VUCA*の時代、人生100年時代といわれる今、看護職は病院だけにとどまらず、地域でも多様な分野をつなぐ機会、集う・育つための仕掛けづくりをすることの大切さを考える機会になりました。教育講演では、原圭史郎先生（大阪大学大学院教授）より、「フューチャー・デザイン」の考え方をご教示いただきました。「仮想将来世代」を導入した意思決定のモデル等は、長期的な未来からの考察で、看護の

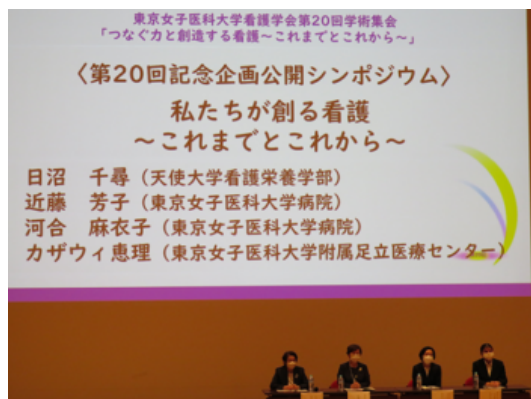


大会長講演



福井トシ子先生による基調講演

キャリア等に生かせる要素がちりばめられていました。交流集会では、本院・附属足立医療センター・附属八千代医療センターから、専門職としての看護の力について、各領域の特徴と魅力をご提示いただきました。現場の看護職と学生等の参加者とをつなぐ機会によって実際の看護の理解をより深めることができました。研究発表は、学生も臨床実践家もご発表くださり、多くの成果から実践への示唆や研究意欲が湧くセッションでした。第20回記念公開シンポジウムでは、日沼千尋先生（天使大学教授）、近藤芳子先生（本院看護部長）、河合麻衣子先生（本院看護部看護師）、カザウィ恵理先生（附属足立医療センター看護部看護師）にご登壇いただきました。本学会20年の歩みについて教育、臨床を通して振り返り、教育と臨床とがつながり合う活動を共有し、これからの看護を展望する機会となりました。



第20回記念公開シンポジウム



手術交流集会

本学術集会が皆さまにとって、これまでの軌跡を振り返ることで、女子医大の教育と臨床の連携という看護の魅力が受け継がれていることを実感し、これからの未来に向けて新しい価値を創造する契機になれば幸いです。第20回学術集会を盛り上げていただきました全ての皆さまに、心より御礼申し上げます。

*VUCA（ブーカ）は、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の四つの単語の頭文字をとった造語です。変化が激しく複雑化し先行きが不透明で将来の予測が難しい状態を意味します。

【附属八千代医療センター】臓器移植推進のグリーンライトアップを実施

附属八千代医療センター臓器提供ワーキンググループ
乾 政志、植本理恵、井川由香里



グリーンリボンデーに合わせ、全国各地の著名な建物やランドマークが、移植医療のシンボルカラーであるグリーンにライトアップされました。附属八千代医療センターもこの活動に賛同し、10月15日から18日まで、日没から21時まで建物をグリーンにライトアップしました。期間中は外来総合受付横に「臓器移植」に関するさまざまなパンフレットを設置し、患者さんに臓器移植について知ってもらい、正しい知識を身に付けてもらえるよう普及活動を行いました。同時にアドバンス・ケア・プランニングとして八千代市から出版されている『家族会議をしよう』や『エンディングノート』を設置しました。ご来院された方には興味を持っていただけたようで、足を止める方も多く、たくさんのパンフレットをお持ち帰りいただきました。

本学では本院・附属足立医療センター・附属八千代医療センターの3施設が「臓器提供に適した機能を有する施設としてガイドライン上の5類型に該当し、18歳未満の児童からの臓器提供を行う体制も整えられている」と日本臓器移植ネットワークに公表されています。

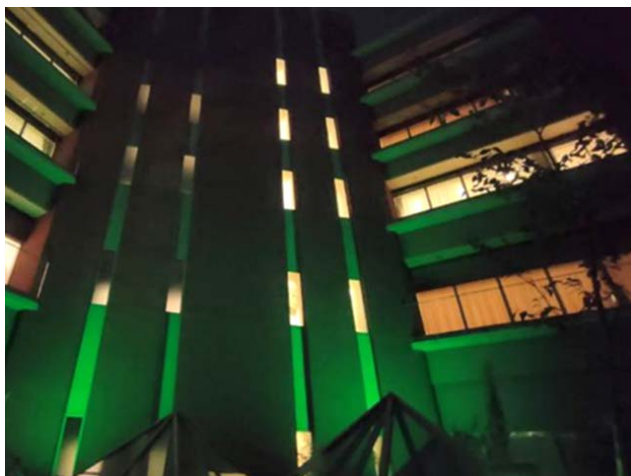
臓器移植は「命のリレー」とも称され、患者さんの最期の願いを実現するための重要な医療行為です。当院では泌尿器科乾 政志教授を中心とした移植医療に携わる医師たちと、千葉県院内移植コーディネーターが協力し、臓器提供を見据えた日々の準備と活動を続けています。いつ訪れるか分からない臓器提供という患者さんの最期の願いを叶えるために、また家族のグリーフケアのために適切な臓器提供が行えるよう一緒に活動してくれる仲間を臓器提供ワーキンググループでは募集しています。

臓器移植医療が広く認知され、より多くの命が救われることを目指して今後もこのような活動に取り組んでいきたいと思っています。

10月16日は「**グリーンリボンデー**」です。この日は、家族や大切な人と移植医療や命の大切さについて話し合い、お互いの臓器提供に関する意思を確認する記念日です。この記念日を通じて、臓器移植医療に対する理解が深まることを期待しています。



左から、レシピエントコーディネーター高橋恭子さん
泌尿器科乾 政志教授
千葉県臓器移植院内コーディネーター植本理恵さん
レシピエントコーディネーター青木真弓さん
千葉県臓器移植院内コーディネーター井川由香里さん



【女性医療人キャリア形成センター】YAYOIプロジェクト合同授与式を開催

女性医療人キャリア形成センター
ダイバーシティ環境整備事業推進室
室長 本多祥子

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）「YAYOIプロジェクト」の一環として10月7日（月）に「第4回グローバル架け橋研究支援」および「第3回彌生人（やよいびと）メンター・メンティ賞」の授与式を合わせて開催いたしました。

「グローバル架け橋研究支援」は、医学と工学をつなぐ架け橋研究に関わる、もしくは新たにスタートを希望する女性研究者、さらには国際的な研究を遂行する女性研究者を支援し、グローバルな架け橋研究の活性化を推し進めることを目的とする事業です。今年度は4名の女性研究者を採択いたしました。また、メンターの優れた指導の結果、女性研究者のメンティが筆頭となり学会発表や高インパクトファクターの雑誌に論文掲載を成し遂げた場合、指導に当たったメンターと当該メンティのペアを表彰する「彌生人メンター・メンティ賞」には、今年度3組のペアが選ばれました。例年はそれぞれ授与式を行っていましたが、研究者同士の交流がさらに広がることを期待し、今年度は合同授与式として開催いたしました。

授与式では証書授与と花束の贈呈が行われ、採択者・受賞者からは、自身の研究に対する強い熱意や今後の抱負、日頃支えてくれている方への感謝の思いなどが口々に述べられました。さらに、肥塚直美女性医療人キャリア形成センター長、齋藤加代子副センター長からは、祝辞と今後への期待など、数々の貴重なお言葉を賜り、華やかな式典となりました。

改めて採択者・受賞者の皆さまへお祝いを申し上げますとともに、今後のご研究のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



肥塚直美センター長



齋藤加代子副センター長



【グローバル架け橋研究支援】



本多祥子ダイバーシティ推進室長



【メンター・メンティ賞】

加藤環 講師 ゲノム診療科

「脊髄性筋萎縮症の
新生児スクリーニン
グにおける重症度予
測についての研究」



吉田杏美 助教 先端生命医科学研究所

「創薬モデル確立に
向けた折りたたみ式
ヒト3次元骨格筋組織
の作製」



関桃子 助教 腎臓内科学分野

「腎性貧血における
赤血球寿命短縮の機
序について」



白井陽子 助教 腎臓小児科

「抗ネフリン抗体が関
与する巣状分節性糸球
体硬化症腎移植後再発
の病態の解明」



※採択時の職位・所属を記載

〈メンティ〉

山下沙由里助教
(膠原病リウマチ
内科学分野)

〈メンター〉

勝又康弘講師
(膠原病リウマチ
内科学分野)



〈メンティ〉

堀場綾子助教
(脳神経外科学分野)

〈メンター〉

山口浩司講師
(脳神経外科学分野)



〈メンティ〉

矢作綾野助教
(解剖学 顕微解剖学・
形態形成学分野)

〈メンター〉

望月牧子助教
(解剖学 顕微解剖学・
形態形成学分野)



※採択時の職位・所属を記載

こちらで掲載しております役職・所属は執筆当時のものです。

【女性医療人キャリア形成センター】看護専門領域スキルアップ 研修の取り組み

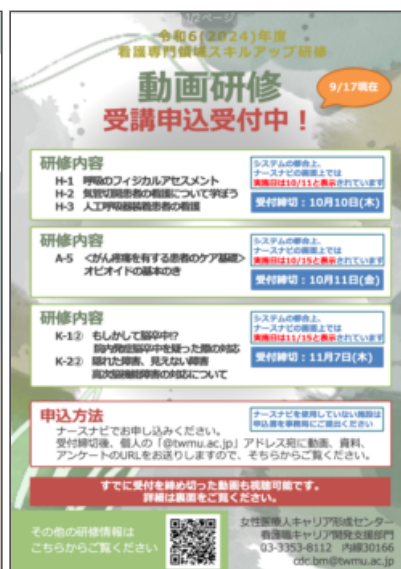
女性医療人キャリア形成センター
看護職キャリア開発支援部門
「看護専門領域スキルアップ研修」ワーキング

私たち女性医療人キャリア形成センター看護職キャリア開発支援部門「看護専門領域スキルアップ研修」ワーキングは、3施設のスペシャリストらによる「スキルアップ研修」で看護職の自発的な学習をサポートしています。

2024年度は、施設別では本院が6領域19研修、附属足立医療センターが4領域9研修、附属八千代医療センターが1領域2研修、精神看護と手術看護では、施設間で連携し企画、実施しています。また、3施設の部長宛てに動画研修のリーフレットを配布し、広報を行い、学習者の受講機会が増えるよう活動してきました。今年度で14年目になるスキルアップ研修ですが、世の中の移り変わりや学習者のニーズに合わせてBoxを活用した動画研修やオンラインシステムによるWeb研修を企画に取り入れています。事務局の方々の日頃からの多大なるお力添えがあって、3施設に在籍するスペシャリストらによる磨き抜かれた知識と技術に基づく研修が実現しています。



2024年度スキルアップ研修実施要項



動画研修案内ポスター

これからも看護職が臨床において誇りを持って看護実践ができるよう、学習者自身が望む学習スタイルでスキルアップできる機会を調整していきたいと思います。研修のスケジュールや実施要綱、申し込み方法は院内・院外のホームページをご覧ください。研修の最新情報も随時更新しております。

【今年度のスキルアップ研修企画領域】

- ・がん看護領域
- ・救急看護領域
- ・皮膚・排泄ケア領域
- ・排尿ケア領域
- ・手術看護領域
- ・リエゾン精神看護領域
- ・糖尿病看護領域
- ・呼吸ケア看護領域
- ・新生児集中ケア領域
- ・脳卒中看護領域
- ・クリティカルケア看護領域

【院内ホームページ】 <http://houjin.int.twmu.ac.jp/intra/gender/skillup.html>

【院外ホームページ】 https://www.twmu.ac.jp/university/cdc/Ns-career/project/j_project/skilup/

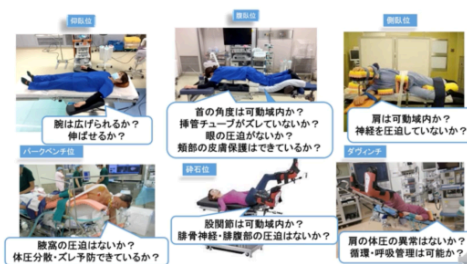


対面研修の様子

手術を受ける患者の看護を さらに充実～術前編～

周術期看護レベルアップシリーズ1

手術看護認定看護師
東京女子医科大学八千代医療センター
高橋 典子 森 舞
東京女子医科大学病院
荒木田 真子



患者さんの術前準備は整いました

- 身体的・精神的症状が整い、最良の状態で手術が受けられる
- 手術に伴う不安が軽減できる
- 手術を安全かつ円滑に受けられる



動画研修（E-1「周術期看護レベルアップ1」より抜粋）

医療従事者のための頭痛講座 第41回

脳神経外科
客員教授 清水俊彦

慢性頭痛と見紛う二次性頭痛 ～時に生命予後に支障を来すことも～ 第三話

脳波異常を伴う頭痛が緊張型頭痛と診断されていることも

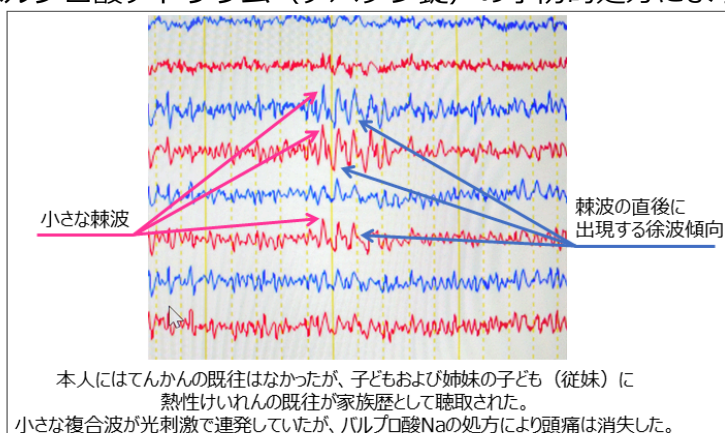
～熱性けいれんなど、本人を含めた家族歴を聴取することが重要～

脳波検査といえば、てんかんで意識消失発作やけいれん発作を起こした患者さんには、診断に際して必須の検査です。しかし、本人にそのような既往がない場合には、行われる機会は少ないでしょう。脳波異常を伴う頭痛は、何となく頭全体が締め付けられるような痛み、もしくは頭重感など、一見して緊張型頭痛と似通う頭痛を来すことがあります。例えば、片頭痛もてんかんと同じく脳の異常な興奮性を伴い、その瞬間の興奮性の高さが痛みという危険信号として認識される疾患です。



しかし、その興奮性があまり大きくなく、連続して起こる場合には、常に頭がすっきりしない頭重感が特徴で、やはり緊張型頭痛と診断されているケースが多く、筋緊張を和らげる筋弛緩薬や鎮痛剤を処方され、毎日連用していることがあります。てんかん発作時は、あまりに大きな放電のため、その直後に脳が損傷を受けることを避けるべく、自らブレーカーを落として脳を保護するため抑制がかかり、このときに意識消失を来します。その放電が手足を動かす中枢である頭頂葉の運動野に波及すると、手足のけいれん発作が誘発されるのです。先にも述べたように、小児期を含め熱性けいれんなどの既往がない限り、診断に際して脳波検査が行われることは少ないでしょう。しかし、片頭痛やてんかんなど脳の異常な興奮性を伴う疾患体質は、家系で遺伝することが多いため、家族歴が重要な診断ポイントとなることがあります。特に、子どもや親兄弟など二親等以内の罹患歴の有無を聴取することが重要です。

今回お示しする慢性頭痛の中年女性は、脳のMRI検査で特段、頭痛を説明する器質性の疾患はなく、緊張型頭痛の診断のもと、鎮痛薬を連用されていました。しかし、お子さんが小児期に熱性けいれんを起こしており、また姉妹のお子さんも同様の既往があったため、脳波検査を施行しました。すると、てんかんを起すような大きな放電は見られなかったものの、光の刺激で小さな棘波（瞬間の異常放電）と徐波（直後の脳の抑制状態）を伴う複合波が連発する状態が観察されました。脳波異常を伴う慢性片頭痛の診断のもと、片頭痛に予防効果を示す抗てんかん剤であるバルプロ酸ナトリウム（デパケン錠）の予防的処方により、連日の頭痛はほぼ消失した症例でした。



【緊張型頭痛と診断され鎮痛薬を連用していた中年女性の脳波検査所見】

教えて！！漢方&鍼灸

教えて！！漢方&鍼灸

附属東洋医学研究所
助教 吉住奈緒子



つらい冷えには漢方を 前編

秋が深まってだいぶ肌寒くなってきました。冷え症の方にとってはつらい季節になってきたのではないかと思います。



冷えは甲状腺機能低下症、膠原病、貧血といった病気が原因となって起こることがあり、その場合はその病気に対する適切な治療が必要ですが、冷え症の多くは検査を受けても明らかな異常が見つからず、西洋医学的には対応が難しい場合が多いです。一方、東洋医学では、冷えを百病の源として捉える思想があり、いかに身体を温め、体温を維持し、冷えから体を守るかについて、長い歴史の中で試行錯誤が繰り返されてきました。まさにここは、東洋医学の出番です。

大学ニュースでは、これまでも「不調を抱える人のおよそ10人に1人が冷えに悩んでいます」（2020年11月号）、「冷え症には、漢方治療もお勧めです」（2021年2月）と題して、冷え症への対応をご紹介してきました。

一概に冷え症と言っても、その冷え方はさまざまです。今回は、冷えの強い部位によって、体全体が冷える「**全身型**」、手先足先が冷える「**四肢末端型**」、上半身はのぼせているのに下半身は冷える「**冷えのぼせ型**」の三つに分けて、冷えの対応についてご紹介していきたいと思います。

・全身型

体全体が冷えているタイプです。新陳代謝が落ちて体のエネルギー産生ができず、体のだるさを伴う場合や、胃腸が弱って栄養状態が悪い場合などが考えられます。体全体が冷えている場合は、まずは湯船にゆっくりつかってください。また、胃腸が弱っている場合には、腹巻などで胃腸を冷やさないように心掛け、消化の良い体を温める食べ物を食べて、胃腸の調子を戻しながら栄養補給を心掛けましょう。



漢方では、このタイプの冷えには「附子（ぶし）」や「乾姜（かんきょう）」といった体を温める生薬の入っている処方を使用します。附子はトリカブトの塊根で、体を温め、冷えを除く作用があり、冷えによる痛みを取る鎮痛作用もあります。また、乾姜はショウガの根茎を湯通し、または蒸して乾燥させたもので、生のショウガに比べ体を温める作用が強く、特に胃腸系を温める作用があります。

実際の漢方処方、原因や体質に合わせてお出ししますので、冷えでお悩みの方は、ぜひ一度、東洋医学研究所にご相談ください。

次回は、ほかの二つのタイプを紹介する「つらい冷えには漢方を 後編」です。

職員・学生のみなさまへ

受診方法

当院は予約制です。南館1階に直接来院、または電話予約してください。

当日もしくは近日中に診察いたします。

■東洋医学研究所クリニック（漢方 保険診療）

電話（予約）03-6709-9025

※保険証をご持参ください。

■東洋医学研究所 鍼灸臨床施設（鍼灸 自費診療）

電話（予約）03-6709-9026

受付時間 月曜日～金曜日 午前8時30分～11時30分、午後1時～3時30分

土曜日

午前8時30分～11時30分（毎月第三土曜日は休診）

午後12時30分～3時30分（毎月第三土曜日は休診）

専門領域看護のしごと 第37回

本院看護部第1病棟6階
認知症看護認定看護師 中川恵美

専門領域看護のしごと

— 認知症看護認定看護師の役割と活動 —

認知症とは、何らかの影響で脳細胞が死滅し、その障害によって日常生活に影響を及ぼしている状態のことをいいます。記憶障害が中核症状として現れる人が多いですが、障害を受けた脳の部位によって現れる症状も人それぞれです。言葉の意味を理解できない、自分が伝えたいことを言葉にできなくて困っている人も多くいます。

私が認知症看護認定看護師を目指したきっかけは、消化器内科と循環器内科の病棟で勤務していた時、せん妄や認知機能が低下した患者さんが多く、悩みながら手探りで看護をしていた時期にありました。これで良かったのか、他に何かできたのではないかと悩んでいた時、当時の担当看護副部長から認知症看護認定看護師を目指してみないかと勧められたことをきっかけに認知症についての学びを深めたいという思いが芽生えました。資格を取得し2023年度から認知症看護認定看護師として活動を開始しました。

現在は、循環器内科、皮膚科病棟の自部署でせん妄を発症した患者さんや認知症、認知機能が低下した患者さんの対応、身体拘束をしない・身体拘束低減に向けた看護を病棟看護師と一緒に検討し実践しています。院内では、認知症ケアサポートチームの一員として横断的に活動しています。また、外来患者に対して、脳神経内科の医師と協力し、認知症重症度を調べる臨床的認知症尺度（CDR ; clinical dementia rating）検査や、多職種向けに勉強会なども開催しています。

認知症看護認定看護師
中川恵美

認知症ケアサポートチーム

私は、「患者の真のニーズを知る」ということを大切にしながら看護をしています。患者さんが発した言葉や行動だけに捉われるのではなく、その背景や思いを知ることによって真のニーズが見えると考えています。まさに、認知症看護の大切なところは「患者の真のニーズを知る」ではないかと考えます。認知症の人は、私たちにとって時に不可解な行動を取ったりしますが、その言動には必ず意味があるといわれています。その意味を知り関わることで、認知症の人の安心につなげることができます。

昨今、急性期病院に入院した認知症の患者は、尊厳を脅かされているともいわれています。その理由の一つとして、認知症患者にとって不適切な対応が混乱を招き、行動心理症状につながり身体拘束を受けたり、目的の治療が受けられなかったりすることがあるからです。認知症の人の言動の意味を知る関わりは一人ではできません。認知症があっても安心して入院生活を送り、治療が受けられるようなサポートができる環境を作ることが私の目標です。

患者さんからの感謝の言葉 2024年10月分

【本院】医療対話推進室
【附属足立医療センター】患者サポートセンター
【附属八千代医療センター】患者サービス室

患者さんからの「感謝の言葉」10月分を紹介いたします。

【本院】

感謝の言葉は、本院内イントラサイトのほか、病院webサイトからご覧いただけます。

入院

循環器内科医師へ

私は透析をしていて、ここの循環器にて診察していただいております。
先週入院して、その結果報告書を送付してもらいましたところ、通院しているクリニックの院長から、当病院の担当医師の返事がとても詳しく丁寧で感心したとのことで、医師名も聞かれました。当クリニックは30床程度ですが、いろいろな病院での診察を受けているが、その対応で1番だとほめられました。その医師は〇〇医師です。
この先生は私、家族にも丁寧で家族の信頼も多大です。
このような良い医師が居るからこそ安心できます。



循環器内科医師、西病棟B2階病棟スタッフへ

〇〇先生、〇〇先生はじめ、担当看護師さん、病棟スタッフの方々、夫に関わる全ての方に感謝しています。
多忙の中、夫の心や体の辛さに向き合い、なんとか辛さが緩和する方法を考え対応してくださっています。
食事が取れなければ栄養課の方が食べやすい食事を提供してくださり、他科にもコンサルトし専門のチームにも検討いただいています。
本当に感謝しかありません。皆さまありがとうございます。
また、外来主治医の〇〇先生、夫を気にかけてくださりありがとうございます。



【附属足立医療センター】

開示に同意をされているご意見は、病院webサイトや院内掲示板上に改善策も併せて掲示しています。

入院

<MFICU>

産科MFICUに3カ月以上入院させていただきました。最初は、命が助かるか、助からないかくらいの話をしていた頃から、何とか安心して産める時期まで管理・対応していただきました。たくさんの助産師さんたちに支えられ、励まされ、見守っていただきました。本当に忙しそうで、夜勤も長い中、手厚く面倒をみてくださった皆さん、本当にありがとうございました。〇〇師長には、精神面で大変助けられました。まだ20週のかかなり不安な頃、時間もない中、たくさん話を聞いてくれて他の人だと「人それぞれ」と言われていたことも自身のご経験からより具体的により丁寧に心を込めてお話してくださいました。それまで苦しかった心も一気に晴れ模様。師長の臨機応変な対応に、そしてたくさんの愛のこもった言葉に全て救われ、入院を乗り越えることができました。師長の鏡だと思います。あんな状況だったのに、希望を本当にありがとうございました。

〇〇先生は、大尊敬の主治医です。こんな先生に出会ったことがないです。いつも穏やかで丁寧で謙虚で私のくだらない質問にもきちんと答えてくださって、とても忙しい中でも、優しく、時間をかけてご自身の経験も含めてお話してください、本当に信頼できました。医者として、人として、こんなお医者さんだったら、皆、安心できるだろうと思います。先生の体も大事にしてもらい、たくさんの人を救ってほしいです。

<7東病棟>

まずは夜間外来で子どもを診察してくださり、そのまま入院させていただきありがとうございました。夜間に対応してくれた先生方はとても丁寧にかつ的確に子どもを診てくださりました。次の日の朝には、その先生お二人が様子を見に来てくださりほっとしました。夜勤の看護師さんも忙しいでしょうが丁寧に穏やかな方ばかり。夜も安心して過ごすことができました。

<6西病棟>

※長文のため、要旨のみ

- ・NICU受付の〇〇さんは、明るく、優しく、部屋に入ることがうれしい気持ちになりました。いつも優しく、本当にありがとうございました。
- ・NICUの医師さんとても丁寧に優しく対応してくださり、そして博識でした。説明もしっかりしてくれて安心できました。
- ・長いこと寄り添ってくれた看護師さんたち。皆さん何でも知っていて、誇りと優しさを持って対応してくれていることを尊敬しています。
- ・陰でたくさん支えてくれて、赤ちゃんのケアとお母さんのケアをしてくれて、素晴らしいサポートと愛情に心から感謝します。

【附属八千代医療センター】

開示に同意をされているご意見や感謝の言葉は、病院webサイトからもご覧いただけます。

入院

5階西病棟

看護師の方々の対応が丁寧で快適に過ごすことができました。また、初日と手術日に担当していただいた●●さんは手術前に話しかけてくださり、手術の不安や緊張が和らぎました。その他の場所でも明るく立ち振る舞っていただき、元気をいただきました。直接感謝を伝えられなかったため、この旨を●●さんに伝えていただけると助かります。関係者の皆さま、入院中面倒をみていただきありがとうございました。

6階東病棟

- ・看護師はスッと筋が通り、天使のようであった
- ・医師も紳士的。特に食事の下膳を医師もされていて医師、看護師の協力体制が素晴らしい
- ・配膳の方も名前確認から徹底されていて素晴らしい
- ・民生委員やかかりつけ医にこの病院のすばらしさを伝えます

6階西病棟

入院当初、喉が痛く口に物が通りにくく水もともに飲めず点滴の毎日でしたが、おかげさまで今では見違えるように元気になりました。わがままで好き嫌が多くご迷惑をかけました。今回食の大切さを十分知りました。余命6カ月と言われましたが、これからは化学療法を頑張り、90歳を目標に残りの人生を楽しく、食に注意して生きていきます。本当に皆さまお気遣いありがとうございました。

追伸 体重1.5キロ増えましたよ。本日退院です。ありがとうございました。

6階東病棟

夜勤で2回ほどお世話になった●●さん、心優しく不安なこともなくなるくらいうれしかったです。ありがとうございました。

【情報システム課】OSにはサポート期限があります！

経営統括部情報システム課

Windows10のサポート終了まであと10カ月！！

OSやソフトウェアにはサポート期限があります。
例えばWindowsの場合、マイクロソフト社によってサポートライフサイクル期間というものがあり、
直近だと、**2025年10月14日にWindows10のサポートが終了します。**

Windows10のサポート期限について

Windows10は2025年10月14日にサポートが終了します。

Windows10をご利用の方は買い替えまたはOSアップグレードをご検討ください！

■買い替えの場合

法人指定のPCにお早めに買い替えてください。

業務用PCラインナップ：<https://www.twmu.ac.jp/university/toitsuPC/>

■OSアップグレードの場合

各自での実施をお願いいたします。

サポート終了とは

サポート終了後は、動作や不具合などの問い合わせを提供元に受け付けてもらえなくなる可能性が高く、ソフトウェアに脆弱性（セキュリティの穴）が見付かってもそれを修正する更新プログラムが配布されなくなります。

サポート期限の終了とは、実質的にOSやソフトウェアの寿命ともいえます。

サポート終了したOSを使い続けると自身のパソコンだけでなく周囲の方のパソコンや法人全体をも危険に晒してしまう可能性があります。
サポート期限が終了する前に、最新バージョンにアップデートするようにしましょう。
(Windows updateは忘れずに適宜行いましょう！)

サポート期限が終了したOSにつきましては、情報システム課のサポート対象外となります。あらかじめご了承ください。

※ご利用のシステムが最新OSで正常に使用できることをご確認の上、アップデートしてください。

OSやソフトは最新の状態を保ちましょう

OSのサポートが終了すると、その上で動作するソフトや周辺機器もサポートの打ち切りに向かいます。

ESETなどのセキュリティソフトも例外ではなく、サポート終了から一定期間経つとそのOSでのESETのアップデートの配信が打ち切られてしまいます。

また、ESETにもサポート期限があるため、適宜バージョンアップが必要となります。

セキュリティソフトが正常に機能していないパソコンは
学内ネットワークへの接続禁止ですので、必ず対応しましょう！

●参考情報

OSセキュリティについての注意（情報システム課）

<http://johosys.twmu.ac.jp/?p=519>

現在お使いの Windows 10 のバージョンを確認する方法（Microsoft）

<https://is.gd/2tw3Av>

Windows10のバージョン一覧（Microsoft）

<https://is.gd/kqdqfp>

Windows のサポート ライフ サイクル日程（Microsoft）

<https://is.gd/UGSACq>

法人指定PCラインナップ

<https://www.twmu.ac.jp/university/toitsuPC/>

理事・評議員・監事の選任

総務部総務課

10月18日（金）開催の臨時理事会・臨時評議員会において、「寄附行為」の定めるところにより、理事・評議員・監事の選任が行われ、以下のとおり承認されました。

— 新任理事 —

（10月23日付就任）

山中 寿（学長）

小西 範幸（学識）

寺脇 一峰（学識）

橋本 周司（学識）

大澤 眞木子（本学医学部卒業生）

多賀谷 悦子（本学医学部卒業生）

宮田 麻理子（本学医学部卒業生）

青木 雅子（教授）

神崎 正人（教授）

近藤 芳子（功労）

田中 功（功労）

新浪 博（功労）

— 新任評議員 —

（10月18日付就任）

大澤 眞木子（本学医学部卒業生）

多賀谷 悦子（本学医学部卒業生）

宮田 麻理子（本学医学部卒業生）

青木 雅子（教職員）

神崎 正人（教職員）

近藤 芳子（教職員）

田中 功（教職員）

新浪 博（教職員）

（10月23日付就任）

山中 寿（学長）

高村 悦子（本学医学部卒業生）

藤巻 わかえ（本学医学部卒業生）

降矢 芳子（本学医学部卒業生）

山内 かづ代（本学医学部卒業生）

横田 仁子（本学医学部卒業生）

若井 幸子（本学医学部卒業生）

清水 達也（教職員）

西村 勝治（教職員）

裏出 令子（学識・功労）

佐藤 隆文（学識・功労）

板東 久美子（学識・功労）

二川 一男（学識・功労）

松崎 正年（学識・功労）

松永 和紀（学識・功労）

— 新任監事 —

（10月23日付就任）

三宅 博人

橋本 副孝

三好 敏也

就任のあいさつ（医学部）2024年11月

附属足立医療センター心臓血管外科 准教授 古川博史（ふるかわ ひろし）

このたび、附属足立医療センター心臓血管外科に准教授として赴任いたしました古川博史と申します。心臓血管外科では、外科手術だけでなく、カテーテル治療などを含めた患者にやさしい治療を導入し、さらに術後の早期ADL獲得とQOL維持に向けた多職種介入したチーム医療を行っていきます。24時間365日対応可能な地域に貢献、信頼される診療科を目指し、フットワーク良く対応させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



— 略歴 —

平成 5年 3月 産業医科大学医学部 卒業
4月 本学附属日本心臓血圧研究所循環器外科
12年 10月 博士（医学）学位取得（本学）
13年 7月 ～ 16年 6月
Research Fellow of Cardiothoracic Surgery, UCLA Medical Center (U.S.A.)
24年 7月 川崎医科大学心臓血管外科 講師
令和元年 11月 本学東医療センター心臓血管外科 准教授
5年 6月 東京臨海病院心臓血管外科 部長

10月度理事会

令和6年度 第16回 臨時理事会（10月4日開催）

〔審議事項〕

1. 【医学部】附属八千代医療センター呼吸器外科教授選考の中止ならびに選考委員会解散の件
2. 諮問委員会からの要請について
3. 3病院病院長選任内規について
4. （方針稟議）各顧問契約の刷新について

〔報告事項〕

1. 今後のスケジュール案について
2. 文部科学省訪問の件
3. 令和6年度下半期賞与について

令和6年度 第17回 臨時理事会（10月11日開催）

〔審議事項〕

1. 新生東京女子医科大学のための諮問委員会からの助言に基づき、新体制の役員への報酬提示に際しての最低限の役員報酬規程の改訂の件
2. 3病院病院長選考委員会立ち上げの件

〔討議事項〕

1. 理事引継ぎ資料の件
2. 教授会有志からの要請について

〔報告事項〕

1. 文部科学省訪問の件
2. 諮問委員会の件
3. 私立大学連盟訪問の件
4. タスクフォース一覧（最新）
5. 第5小委員会報告
6. 今後のスケジュール案について
7. 前回議題「（方針稟議）各顧問契約の刷新について」での依頼資料
8. 令和6年度学校法人運営調査委員による運営調査の実施について

令和6年度 第18回 臨時理事会（10月18日開催）

〔審議事項〕

1. 学長選任の件
2. 理事辞任に伴う理事（学識区分）選任の件
3. 寄附行為変更に伴う評議員区分変更の件
4. 評議員（卒業生区分、教授区分、学識・功労区分）選任の件
5. 監事辞任に伴う監事候補者選出の件
6. 監事選任の件
7. 新生東京女子医科大学のための諮問委員会からの助言に基づき、新体制の役員への報酬提示に際しての最低限の役員報酬規程の改訂の件
8. 看護学部長他の評議員区分変更の件
9. 学識・功労区分の学外評議員選任の件
10. 医学部卒業生区分、教職員区分の評議員選任の件
11. 附属足立医療センター麻酔科定年退職後再雇用更新の件【2回目】
12. 附属足立医療センター定年退職後の再雇用（嘱託職員）更新の件
13. 附属足立医療センター定年退職後の再雇用（嘱託職員）更新の件
14. 附属足立医療センター産婦人科定年後再雇用更新の件【2回目】
15. 附属足立医療センター周産期新生児診療部定年後再雇用更新の件【2回目】
16. 附属足立医療センター検査科定年退職後再雇用（嘱託職員）の件
17. 本院令和6年度（下半期）手術室・中央材料室運営支援業務委託契約更新の件
18. 附属八千代医療センター糖尿病・内分泌代謝内科診療科長選任の件
19. 図書館2025年外国雑誌・電子コンテンツ購読更新料について（方針稟議）
20. 東京女子医科大学倫理規程制定の件

〔討議事項〕

1. ホームページ公開原稿の確認

〔報告事項〕

1. 附属足立医療センター整形外科客員教授雇用更新の件
2. 看護専門学校入試に係る諸規程改定の件
3. 図書館図書管理規程改定および利用規程と関連要綱新設の件
4. 学校法人東京女子医科大学内部（公益）通報に関する規程改定の件
5. 「彌生塾規程」改定の件
6. 事務局等連絡会規程改定の件
7. 寄附金取扱規程改定の件
8. 諮問委員会に提出する理事・監事の引継書について

令和6年度 第19回 定例理事会（10月23日開催）

〔審議事項〕

1. 理事長選任の件

〔報告事項〕

1. 担当理事の選任について
2. 私学法改正に伴う寄附行為などの学内整備の説明
3. 文部科学省への改善報告書提出の件

10月度評議員会

令和6年度 第3回臨時評議員会（10月18日開催）

〔討議事項〕

1. 評議員の任期について

〔諮問事項〕

1. 理事辞任に伴う理事（卒業生区分、教授区分、学識・功労区分）選任の件
2. 監事辞任に伴う監事選任の件
3. 新生東京女子医科大学のための諮問委員会からの助言に基づき、新体制の役員への報酬提示に際しての最低限の役員報酬規程の改訂の件

10月度医学部教授会

〔審議事項〕

1. 人事について
2. 令和7年度教育費申請方針について

〔討議事項〕

なし

〔報告事項〕

1. 大学の現況および令和6年9月度理事会決定事項、報告事項
2. 規程の改定について
3. 統合教育学修センター副センター長の任命について
4. 各教授候補者選考委員会報告
5. 各委員会報告
6. ワークフローシステム（電子申請・承認システム）の全学導入について
7. 各種奨励金の公募について
8. 令和7年度科研費応募状況について
9. 令和6年度解剖慰霊祭実施報告
10. 令和6年度医学部卒業式の対応について
11. 他大学における研究不正事例について
12. 他大学における学生の危険行為事例について
13. 他大学における情報漏洩事例について
14. コンプライアンス啓発活動について
15. 高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援）タイプBの選定結果について
16. 働き方改革検討部会（TOMOEプロジェクト）報告について
17. 9月30日開催の説明会について
18. その他

〔FD〕

なし

10月度看護学部教授会

〔審議事項〕

1. 看護学部地域看護学領域助教選考
2. 令和7年度行事予定（案）について

〔報告事項〕

1. 本学の近況および定例理事会決定事項報告
2. 戦略会議報告
 - (1) 欠番
 - (2) 欠番
3. 各種委員会報告
 - (1) 教育審議会
 - (2) 看護学教育の質向上委員会
 - (3) 教務委員会
 - (4) 学生委員会
 - (5) 欠番
 - (6) 広報委員会
 - (7) オープンキャンパス委員会
 - (8) 国際交流委員会
 - (9) 欠番
 - (10) 女性医療人キャリア形成センター運営委員会
 - (11) 看護系運営委員会
 - (12) 准教授講師会
4. その他
 - (1) コンプライアンス啓発活動について
 - (2) 公的研究費に係わる教育講習会の受講について
 - (3) 他大学の研究費不正使用に対する処分について
 - (4) 令和6年度解剖慰霊祭の報告について
 - (5) 第20回東京女子医科大学看護学会学術集会について
 - (6) 統合教育学修センター副センター長の任命について
 - (7) 変形労働時間制の導入について
 - (8) ワークフローシステムの全学導入について

10月度医学研究科委員会

【審議事項】

1. 令和6年度論文提出による学位（乙）申請のための語学試験結果について
2. 大学院生の長期履修申請について
3. 大学院カリキュラム「夏の実習」について
4. 文部科学省の博士人材データベース（JGRAD）への本学の機関参加について
5. 指導教授および指導教員が不在の場合の学位申請について
6. 学位申請について
 - (1) 第二次審査・・・2件
 - (2) 第一次審査・・・1件

【討議事項】

なし

【報告事項】

1. 今年度の学位論文審査について
2. 「令和6年度学生生活調査」について

10月度看護学研究科委員会

〔審議事項〕

1. 博士後期課程 研究計画（第2回）の審査結果について
2. 令和8年度大学院看護学研究科入学試験日程について
3. 令和7年度学事暦（案）について

〔報告事項〕

1. 大学院科目次年度科目責任者について
2. 履修変更届の提出について

医療連携・入退院支援部情報 2024年11月

本院 地域連携室

第9回東京女子医科大学病院医療連携講演会・懇親会を開催しました

9月5日（木）19時より、京王プラザホテルにて「第9回医療連携講演会・懇親会」を開催いたしました。令和元（2019）年以來、5年振りとなる対面形式での講演会・懇親会には、新宿区医師会をはじめ近隣医師会や連携登録医の先生方のほか、多くの医療機関の関係者の方々など、総勢395名（院外280名、院内115名）の参加をいただき、盛会となりました。

第一部の講演会では、今年度より新たに着任された脳神経内科の藤堂謙一教授・基幹分野長、消化器内科の中井陽介教授・基幹分野長より講演いただきました。第二部の懇親会では、京王プラザホテルのおいしい料理とお酒を堪能しながら、日頃お世話になっている関係機関の先生方との意見交換を行い、まさに顔の見える連携関係を強化することができました。また懇親会では、改めて新任の診療部長の先生方のご紹介など、本院の新しい診療体制をアピールする良い機会とすることができたと考えています。



当院では、平成24年より新宿区内のホテル等を会場として「医療連携講演会・懇親会」を毎年開催し、東京都医師会、新宿区医師会をはじめ地域の医療機関の医師や看護師のほか、医療連携担当事務員やソーシャルワーカーなど多くの関係者が出席し、顔の見える連携により、率直な意見交換を行ってまいりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、従来通りの大規模な対面による講演会・懇親会が大きく制限され、新しい形式の交流方法が求められることとなったため、令和2年12月よりオンライン形式の講演会として「地域連携Webセミナー」を今年7月までに11回開催してまいりました。今回の講演会に参加いただいた方からは、開催後のアンケートで「お世話になっている先生方と直接会うことができ、顔の見える連携の良さを実感できた」といった感想が寄せられるなど、オンラインだけでは味わえない、対面交流の効果と意義を改めて強く感じるすることができました。

今回は5年振りということもあり、準備・運営を含め至らぬ点多々あったかと思いますが、医療連携・入退院支援部の各部署のスタッフを中心に、当日の運営に際し、外来医事課ほか多くの関係部署の方々にも協力をいただき、無事に開催することができました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

地域連携室では、今後も連携する関係機関の医師をはじめ、メディカルスタッフも含めた多くの医療関係者を対象としたオンラインセミナーや対面での講演会・懇親会を企画し、当院のアピールにつなげられるよう努めてまいりたいと考えております。次回以降の予定が決まり次第、ご案内させていただきますので、多くの職員の方々にも参加いただければと思っております。何とぞよろしくお願いいたします。

医療安全だより 2024年11月

このコーナーは、本学附属施設の医療安全に関わる部門が、月替わりで執筆しています。

医療安全だより 2024年10月

総務部防災・保安課

防災・保安課における自衛消防訓練

防災・保安課では、年間を通して病院災害減災部会と連携し、大地震、火災発生時の対応について各種訓練を行っています。今回は二つの自衛消防訓練について紹介します。

1. 総合外来センター避難訓練

防災・保安課では、平日診療日を想定して、総合外来センター地下駐車場で発生した車両火災と1階受付カウンター付近でガソリンをまき焼身自殺を図った設定の対応訓練を、3月に実施しました。同訓練では「総合外来センターで火災が発生した場合の防火区画と防火戸・防火シャッターの閉鎖（開閉）状況、患者の避難誘導路・方法」について、実際に防火シャッターを閉鎖し、これに伴う避難経路・方法の確認と

1の避難誘導、消火器・散水栓による消火訓練を併せて実施しました。なお、この訓練の様態を収録したDVDを貸し出しています。ご覧になりたい方は防災・保安課（内線番号21196、共用メールアドレス；bousaika.bm@twmu.ac.jp）までお申し付けください。

2. 総合防災訓練

総合防災訓練では、法人災害対策本部訓練（以下、本部訓練とします）と病院災害対策本部訓練とがあり、法人災害対策本部（以下、本部とします）と病院災害対策本部とをそれぞれ設置した上で、9月にこれらの訓練を実施しました。このうち、防災・保安課が実施した本部訓練では、学内の全12施設から被害情報および支援要請情報等が遺漏なく報告され、本部にてこれらの情報を集約し、法人役員への最終報まで行いました。また、河田町キャンパス各建物（一部を除く）の館内放送訓練においては、初めて非常放送設備機器（従来は業務放送で対応）を使用したことにより、防災・保安課課員、警備員がこれらの機器の使用方法を確認することができました。さらに、安否確認訓練では、一部の方からの返信がありませんでしたが、繰り返し行ったことにより、防災に対する職員の意識の向上を図ることができました。なお、大地震発生時には被害状況を一刻も早く把握する必要があります。しかし、従来のアナログ無線機では不感地帯があり、前述の各報告において情報集約に問題がありました。そこで、昨年度にIP無線機を導入したことにより、警備員と本部（防災センター）間の情報伝達をスムーズに行えるようになりました。特に、附属足立医療センター、附属八千代医療センター、附属成人医学センターにおいては、本年度よりIP無線機を導入しましたので、今回の総合防災訓練では、上記の訓練のほかに、初めてIP無線機を使用した本部（防災センター）への被害状況報告を行いました。無線報告内容は鮮明に聞き取ることができ、的確に情報集約を行うことができました。従来の防災行政無線やGoogleフォームなどに加え、情報収集の選択肢が増えました。



看護部だより 2024年11月

このコーナーは、本学附属施設の看護業務に関わる部局が、月替わりで執筆しています。

保健管理センター 学生健康管理室
看護師長 鈴木登万

【保健管理センター】学生健康管理室の活動 — 心身ともに健やかな医療人の育成のために —

学生健康管理室は、学校保健法に基づき、本学の医学部・看護学部生を対象に保健行事を担うことを目的として2012年から稼働しています。クリニックとしての機能も備え、医師と看護師、事務員が協働し運営しています。開室から10年以上たちましたが、学内での校舎の移設に続き、コロナ禍においては昨年まではオンラインでの講義受講や実習の制限等もあり、多くの学生が心身の不調を訴えて来室する傾向がありました。ここ数年の大きな社会変化に伴い、当室の活動や役割も少しずつ変化してきています。

学生健康管理室の主な活動は以下の通りです。

1. 学校保健法に基づく健康診断
2. 医療系大学としての感染症の管理（各種予防接種、抗体価管理）
3. 診断書の作成（実習用、入職用、資格手続き用、その他）
4. 学生相談
5. 体調不良者の初期診断、初期治療と適切な施設への紹介
6. 休養室としての提供
7. 健康管理教育
8. 医学部、看護学部、看護専門学校との連携
9. 健康に関する情報の一元化と情報発信
10. 安全衛生管理室との連携（大学教職員へのワクチン接種等の補助業務）

看護師は、これらの活動に直接的、または間接的に学生と関わりますが、診療の補助と療養上の世話として、主に学生とのファーストコンタクトを担っています。問診、バイタルサインの測定、静脈内注射や投薬など一般のクリニックと同様の業務の他、学生からの用件を聞き、緊急性の判断や生活上の問題を学生とコミュニケーションを取りながら一緒に考え、医師に繋ぐまでの調整を行っています。学生と関わった過程や反応は、診療録として残し医師に相談、報告しています。

学生健康管理室は、クリニックとしての活動だけでなく、本学に在籍する学生の心身の健康管理を担い、教育することにより、**心身ともに健やかな医療人の育成**に寄与し社会に送り出すことを役割としています。また、心身の健康状態に起因し学業が中断することがないように予防的な介入も行っており、医師と共に看護師もその役割の一翼を担っています。

「至誠と愛」の实践を
心掛けています



募金状況 2024年10月

総務部総務課

次の方々よりご寄付を賜りました。御礼申し上げます。※敬称は省略させていただきます。

一般寄付

(単位:円)

No.	寄付者	金額	寄付先
1	株式会社ハイメディック	1,000,000	東京女子医科大学病院 乳腺外科学
2	GEヘルスケアファーマ株式会社	1,000,000	東京女子医科大学病院 画像診断・核医学科
3	株式会社 三和化学研究所	500,000	東京女子医科大学病院 糖尿病・代謝内科
4	アボットジャパン合同会社	300,000	東京女子医科大学病院 糖尿病・代謝内科
5	株式会社イノメディックス	50,000	東京女子医科大学病院 形成外科
6	株式会社 三和化学研究所	300,000	附属足立医療センター 内科

大学環境整備寄付

(単位:円)

No.	寄付者	区分	金額
1	匿名希望 1件		2,000,000
		合計	2,000,000
令和6年10月31日 累計1,040件			1,131,426,995

大学環境整備寄付 今までにご寄付を頂いた方一覧

※1 敬称略 ※2入金日順

2016年12月ご寄付 ≪個人≫ 加川瑞夫、小野由子、瀬木和子、池田三知代、足立公代、永松美香、横山愛子、嘉和知直美、肥塚直美、高橋麻穂、大森安恵、渡邊順、山口令、山田有紀、木本昌子、郡司一恵、近喰ふじ子、井口登美子、三輪治子、岩本絹子、角田由理、白松美加、川島弘子、内潟安子、熊谷貴代、長谷川みわ、原隆志、大澤真木子、新田孝作、長柄光子、三輪洋子、雨宮禎子、小田原慶子、小池弘幸、川越倫、飯田朋子、岡田真由美、行岡紀子、川真田美和子、寺田修子、渡辺俊夫、山上実千子、井上静子、上平知子、深田一彦、八幡泰光、鈴木康江、吉岡俊正、布川香織 ≪法人≫ 医療法人社団紫陽会 原クリニック、株式会社 誠 真、医療法人社団 恵幸会 匿名：36件
2017年1月ご寄付 ≪個人≫ 中田恵久子、中田史子、亀山和子、荒牧元、荒牧昌子、風間蓉子、田中富美子、尾内映子、田邊一成、山田多佳子、河合米子、浅岡哲生、中島由美子、神津忠彦、溝口秀昭、須磨幸蔵、杉崎那美子、高倉公朋、梶和信子、泉千春、林恵齡、新田澄郎、高野加寿恵、菅野喜興、久保か祢子、山崎康子、高崎健、相羽元彦、鈴木茂、北原久枝 ≪法人≫ 医療法人 浅田レディースクリニック 匿名：27件
2017年2月ご寄付 ≪個人≫ 小田桐恵美、大津真優、鰐淵伸子、東間紘、仁木敦子、松浦勝久、清水達也、櫛田徹、山崎トヨ、瀧田祐一郎、加藤博之、堤篤子、山中力、伊藤千枝子、橋本悦子、泉二登志子、和田恵美子、山本俊至、高橋泰清、吳淑子、伊藤昌子、尾崎眞、内田勢津子、西下房子、藤田萬里子、上村洋太、扇内美恵、松峯寿美、櫻林なおみ、小笠原友里、大和雅之、野村実、若杉訓世、山本雅一、岡野光夫、増永敦子 匿名：35件
2017年3月ご寄付 ≪個人≫ 那内秀樹、亀井大悟、千葉智世、井手博子、片井みゆき、竹内博之、小野拓也、島川真知子、秋久理眞、花岡利恵子、城戸淳美、磯部規子、藤枝伊都子、橋本悦子、藤林真理子、麻生昌子、平松まき、横尾夏代、池田みさ子、小町谷智恵子、吉川晶子、福田直子、金恵媛、桑山和加子、宮川めぐみ、幸野敬子、立花早苗、松田文子、浅原智美、白松美加、宮本伸子、小林啓子、加藤道子、栗原美貴子、久保田鈴子、門屋真知子、保科眞美、土屋櫻、岡村理栄子、竹田真知子、長友由紀子、岡慶子、牧野玲子、木村佳苗、荷見圭子、小野美子、高屋邦子、大館早春、西浦慶子、千々岩妙子、嶺井真理子、本城美智恵、須磨崎加寿子、肥田直子、高田茂登子、小松崎安美、高野和子、宮村康子、山本和子、豊田隆世、太田伊都子、山口都、甘案昌子、鹿田儀子、井口登美子、小関初枝、河鍋楠美、風間蓉子、藤巻京子、山崎康子、石川 尉子、成高義彦、柴田啓美、菅野仁、岡本高宏、小野佐知子、加我牧子 匿名：29件
2017年4月ご寄付 ≪個人≫ 中澤誠、清水京子、小森万希子、秋山美枝、板橋道朗、馬場純子、武者椎枝子、川名教子 匿名：7件
2017年5月ご寄付 ≪個人≫ 齋藤加代子、上塚芳郎、金子恵美子、水野貴志、山下知子、鈴木敦、赤沼君江、堤妙、服部元史 匿名：3件
2017年6月ご寄付 ≪個人≫ 菊池純江、伊藤あゆ子、森山直子、小野雅史、高野史緒、市邊義章、杉山昌章、吉田敏夫、芦野謙、井関みどり、小沢伸光、栗原紀子、稲葉貴子 ≪法人≫ 社会医療法人川島会、東京女子医科大学看護系同窓会、医療法人社団敬水会 江戸川橋鈴木クリニック、医療法人社団ゆかり会 虎ノ門ウィメンズクリニック 匿名：5件

大学環境整備寄付 今までにご寄付を頂いた方一覧

※1 敬称略 ※2 入金日順

2017年7月ご寄付 <個人> 住幸夫、江部則行、重森優子、楯高子、楯真一、竹内聡美、上田みどり、徳重克年、藤多恒子、野原カズ子、田中敬子、平島富美子 <法人> 富二商事株式会社、医療法人社団 庭山医院 匿名：5件
2017年8月ご寄付 <個人> 矢島和雄、澤口彰子 <法人> 医療法人社団日高会 匿名：6件
2017年9月ご寄付 <個人> 石黒直子、荻原博美 匿名：2件
2017年10月ご寄付 <個人> 秋山千里、木村千春、寺田修子、土蔵愛子、三家本洋子、佐伯直美、吉田澄恵、尾岸恵三子、齋藤文子、友野和子、高橋けい子、林文子、木村良子、新井文子、内田幸子 匿名：17件
2017年11月ご寄付 <個人> 平柳百合子、菅野宙子、林直諒、須藤史子、上村茂太、飯嶋睦、森敦子、林佐多子、田口久美恵 匿名：15件
2017年12月ご寄付 <個人> 宮崎俊一、宮崎幸枝、肥塚直美、吉川美知子、江藤美幸、瀬山俊一、土屋きみ子、藤本郁野、蒲敦子、杉下智彦、小泉道子、大澤真木子、長瀬美良子、望月明子、長松淳一、小川久貴子、郡司一恵、川越倫 <法人> 第41回日本鉄バイオサイエンス学会学術集会 匿名：13件
2018年1月ご寄付 <個人> 大谷健、神尾孝子、友田淳治、細貝恵子、斎藤和好 匿名：3件
2018年2月ご寄付 <個人> 篠田博、泉二登志子、小林慎雄 <法人> 株式会社大林組 匿名：3件
2018年3月ご寄付 <個人> 川名教子、中川一美、飯島裕子、池田真美、池原貴志子、石垣景子、岩朝静子、亀山祐美、児玉ひとみ、佐田晶、新村理絵子、鈴木啓子、鈴木知子、緑川美名、田中伸枝、都築恭子、箱田陽子、服部英子、郷家明子、平井えい子、星野有美、松下典子、松谷紀子、前田聡子、山内淳子、渡邊奈美、降矢由紀子、佐伯新子、塚本加奈子、川道弥生、宮本明子、大岩晶子、藤生亜由子、鈴木聡子、五十嵐妙、梅屋玲子、田中瑞保、相澤百合香、森睦、阿部明子、赤羽静枝、荒木秀子、生井節子、岩瀬久美子、柄澤順子、久城初江、小杉道子、小平富子、島貫綾子、須磨弘子、高橋和江、土井道子、中西照子、中野達衣、細谷明美、安部安子、若江清子、伊藤伸子、戸田淳子、大岡亨子、唐澤久美子、西川啓子 匿名：8件

大学環境整備寄付 今までにご寄付を頂いた方一覧

※1 敬称略 ※2入金日順

2018年4月ご寄付 匿名：61件
2018年5月ご寄付 ≪個人≫ 三輪洋子、郡真理、齋藤慶子、原徹、島田和一、鯨井晴雄 匿名：2件
2018年6月ご寄付 ≪個人≫ 鈴木伸良、小泉幸子、後藤憲子、内山竹彦、館野聖二 匿名：7件
2018年7月ご寄付 ≪個人≫ 横田仁子、寺田修子、唐澤幸彦、石垣景子、加藤修司、近藤光子、竹内聡美 匿名：12件
2018年8月ご寄付 ≪個人≫ 木下道子、竹宮敏子、南家由紀、澤口彰子 匿名：4件
2018年9月ご寄付 ≪個人≫ 長松淳一、長松康子 匿名：5件
2018年10月ご寄付 ≪個人≫ 片桐聡、濱谷弘康、近喰ふじ子 匿名：4件
2018年11月ご寄付 ≪個人≫ 柿丸美蓉子、江藤美幸、八木淳二、川野良子、原田敬之、三輪東一郎、道又俊子 ≪法人≫ 有限会社カドタ 匿名：4件
2018年12月ご寄付 ≪個人≫ 佐藤麻子、串田つゆ香、長柄光子、二宮裕一、小國弘量、秋澤叔香、石井明子、中道健一、加川瑞夫、肥塚直美、三上麻木子、大澤真木子、郡司一恵 匿名：14件
2019年1月ご寄付 ≪個人≫ 高崎 健 匿名：9件
2019年2月ご寄付 匿名：1件
2019年3月ご寄付 ≪個人≫ 丸義朗、小泉道子、望月明子、秋濱示江、平成11年卒業生一同 匿名：2件
2019年4月ご寄付 ≪個人≫ 古岡博文、淤見武信、長松淳一 匿名：5件

大学環境整備寄付 今までにご寄付を頂いた方一覧

※1 敬称略 ※2入金日順

2019年5月ご寄付 <個人> 大野泰嗣、島田和一、陳鍾慧喜、川崎香里 <法人> 医療法人社団紫陽会 匿名：2件
2019年6月ご寄付 <個人> 近藤瑞香 匿名：6件
2019年7月ご寄付 <個人> 三輪洋子、三輪東一郎、笹倉真理 <法人> Show Chwan Memorial Hospital 匿名：1件
2019年8月ご寄付 <個人> 木村容子、長谷川仁、小野祥子、ヤマカワハルシゲ、慶田朋子 匿名：3件
2019年9月ご寄付 <個人> 宗像秀子、小川英幸、飯塚修、上原絵里子、竹越亨、戸田潤子
2019年10月ご寄付 <個人> 今里次郎、肥塚直美、平澤恭子、西田志穂、川名教子 匿名：4件
2019年11月ご寄付 <個人> 文野素子、平成三年卒業生一同、森山能仁、平林庸司、足利英幸 <法人> 有限会社日比谷松本楼 匿名：6件
2019年12月ご寄付 <個人> 吉澤正寿、大澤真木子、荻野和郎、三輪生子、田口久美恵、篠根慎子 <法人> 医療法人刀水会 匿名：9件
2020年1月ご寄付 <個人> 新井尚希、長柄明希子、長柄希実子、森清一 匿名：3件
2020年2月ご寄付 <個人> 岩本絹子、宮川朋久、大森安恵、加藤満利子、故今井三喜、芦野謙 <法人> 医療法人義貫会 匿名：4件
2020年3月ご寄付 <個人> 平成12年医学部卒業生一同、三輪生子、今井憲 <法人> コニカミノルタジャパン株式会社ヘルスケアカンパニー 匿名：3件
2020年4月5月ご寄付 <個人> 原徹、長谷川俊明、小野由子、長柄希実子、長柄英男 <法人> 株式会社ミアヘルサ 匿名：6件

大学環境整備寄付 今までにご寄付を頂いた方一覧

※1 敬称略 ※2入金日順

2020年6月ご寄付 <個人> 寺山栄、雨宮徳直、松本晃一 匿名：3件
2020年7月ご寄付 <個人> 宮地真由美、藤井尚之、小菅大徹 匿名：3件
2020年8月ご寄付 <個人> 金井 真、木村 宏、中原 俊二 匿名：2件
2020年9月ご寄付 <個人> 仲西大、青野博志、望月光代 匿名：6件
2020年10月ご寄付 <個人> 稲富 敏伸、遠井 素乃、三輪 東一郎、前島 治実、小林 一広 匿名：9件
2020年11月ご寄付 <個人> 吉崎 明彦、佐々木 孝江、森山 能仁 匿名：2件
2020年12月ご寄付 <個人> 武井 和夫、吉澤 正寿 匿名：6件
2021年1月ご寄付 <個人> 佐藤 雄一、後町 浩二、横田 仁子、 <法人> 武陽ガス株式会社 匿名：2件
2021年2月ご寄付 <個人> 山本 稚枝子 <法人> 医療法人社団竹峰会 竹田内科医院、医療法人義貫会 中島病院 匿名：0件
2021年3月ご寄付 <個人> 井口 登美子 <法人> 社会医療法人中山会 宇都宮記念病院、株式会社 ロイヤルメディカルクラブ 匿名：0件
2021年4月ご寄付 <個人> 稲富 敏伸・由香、三枝 奈芳紀、榎本 博幸 匿名：2件
2021年5月ご寄付 <個人> 山下 浩、渡邊 道隆、坪井 龍生、青嶋 武子 匿名：1件
2021年6月ご寄付 匿名：2件
2021年7月ご寄付 匿名：1件

大学環境整備寄付 今までにご寄付を頂いた方一覧

※1 敬称略 ※2 入金日順

2021年8月ご寄付 <個人> 長柄 希実子、堀 悦子 匿名：2件
2021年9月ご寄付 <個人> 寺山 栄 匿名：1件
2021年11月ご寄付 <個人> 久賀 養一郎 <法人> 日本メガケア株式会社、ジャパン プロテクション株式会社、医療法人 義貫会、株式会社ムトウ 匿名：1件
2021年12月ご寄付 <法人> 望星サイエンス株式会社、株式会社廣瀬商会、株式会社小山商会、株式会社ミトモコーポレーション サンメディックス株式会社 匿名：1件
2022年1月ご寄付 <個人> 齋藤 加代子、川原 健司 <法人> 富士フィルム医療ソリューションズ株式会社、富士リネンサプライ株式会社 能美防災株式会社、ワタキューセイモア株式会社東京支店、アイティーアイ株式会社、株式会社山登小林 匿名：3件
2022年2月ご寄付 匿名：1件
2022年3月ご寄付 <法人> 日清医療食品株式会社東関東支店、カミマル株式会社
2022年4月ご寄付 <個人> 長柄 希実子
2022年7月ご寄付 <個人> 椎名 豊、三谷 健一郎 匿名：1件
2022年8月ご寄付 <個人> 佐々木 利英 <法人> フジテック株式会社 匿名：1件
2022年10月ご寄付 <個人> 山本 硬
2022年11月ご寄付 <個人> 羅田 泰和、泉二 登志子 <法人> 医療法人 義貫会 匿名：1件
2023年1月ご寄付 <個人> 稲富 敏伸・由香 匿名：2件
2023年3月ご寄付 <個人> 山手 貴詔、中澤 敬

大学環境整備寄付 今までにご寄付を頂いた方一覧

※1 敬称略 ※2入金日順

2023年4月ご寄付 <個人> 河合 文平
2023年6月ご寄付 <個人> 小林 洋一 <法人> 医療法人 愛晋会 匿名：1件
2023年10月ご寄付 匿名：1件
2023年11月ご寄付 匿名：1件
2024年1月ご寄付 匿名：1件
2024年2月ご寄付 匿名：1件
2024年6月ご寄付 <個人> 鈴木 進一、高野 加寿恵 匿名：3件
2024年7月ご寄付 <個人> 田村 猛
2024年10月ご寄付 匿名：1件

今月の写真コーナー 2024年11月



【福島県福島市 吾妻連峰一切経山】

福島県と宮城県の県境付近に位置する磐梯朝日国立公園の浄土平に聳（そび）え立つ標高1949mの一切経山。私自身、毎年のように登りに行く山です。活火山でもあり、現在もなお一部の斜面で噴煙を上げ続けています。酷暑も過ぎ去り、秋らしくなったところで足を運んでみました。山頂を目指して歩いていると、一切経山をバックに鮮やかな草花や草紅葉が生い茂る風景に足が止まり撮った一枚です。

病理学（人体病理学・病態神経科学分野） 有益 優

【千葉県八千代市 附属八千代医療センター】
附属八千代医療センターにて臓器移植推進の
グリーンライトアップを実施

【千葉県富津市 鋸山の「地獄のぞき」】

地元小学生の遠足の定番である鋸山には、こんな絶景ポイントも。先端まで行って下をのぞくと足がすくみませんが、目を上げれば彼方にキラキラ光る東京湾が広がり、その向こうに富士山が陽炎のように浮かんでいます。まさに壮観。

統合教育学修センター 畑 優子

写真コーナーでは季節感のある写真を掲載していきますので気軽にご投稿ください。旅行での一コマ、日常やお出かけの際のふとした情景等の写真をお待ちしています。また、同僚に写真好きの方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

◎写真コーナーに掲載した写真は、糖尿病棟横の渡り廊下に写真を掲載しています。

◎12カ月に一度、写真コーナーに掲載した写真を広報委員会にて投票し、上位5位までを表彰。副賞として図書カードを贈呈しています（1位5,000円、2位3,000円、3位～5位1,000円）。

質問等ございましたら、広報室まで。（内線：30161～2）

ご応募はこちら kouhou.bm@twmu.ac.jp

広報室からのお知らせ 2024年11月

10月号大学ニュース記事閲覧状況（トップ5）

※webページのための閲覧カウントです。PDFでの閲覧は含まれていません。

- 1 就任のあいさつ（医学部） 2024年10月
- 2 今月の写真コーナー 2024年10月
- 3 9月度理事会
- 4 看護部だより 2024年10月
- 5 募金状況 2024年9月

広報室イントラでは、マスコミ取材など、広報室で取り扱ったものや皆さまからお寄せいただいた情報などを掲載しています。放送日・発売日につきましては、「広報室イントラ」でご確認ください。（学内端末でのみ閲覧可能）

<http://houjin.int.twmu.ac.jp/intra/soumu/koho/houei.html>

大学ニュースへの掲載は広報委員会（毎月第4金曜日開催）に諮り、翌月号に掲載しています。掲載のご依頼につきましては以下の締切日までに広報室へご連絡ください。

1月号掲載依頼締切 >12月13日（金）

原稿提出期限 >12月20日（金）

なお、これまで掲載していた以下の情報はそれぞれのURLからご確認ください。

人事異動（学内端末でのみ閲覧可能）

<http://houjin.int.twmu.ac.jp/intra/jinji/announce.html>

図書館カレンダー（学内端末でのみ閲覧可能）

<http://opac.lib.twmu.ac.jp/library/>



大学ニュースweb版では、彩りも鮮やかに展開させていきたいと考えています。つきましては、教職員の皆さまが撮影された写真（未発表のもの）を募集いたします。花や風景など季節感満載の自信作をお待ちしています。

送付先 kouhou.bm@twmu.ac.jp

広報室：内線番号30161～30162、総合研究棟1階 事務局事務室101A

編集後記 2024年11月

毎回、「熾火の上に」を拝見していると、本学の長い歴史とこれまで活躍されてきた（いる）方々の静かでも芯の部分が真っ赤に燃えているような熱い探求心が伝わってきます。この方々のように活躍するためには、それを受け入れる組織とトップマネジャーが必要です。各選考委員の方々は責任重大ですが、この編集後記が出るころには新生女子医大にふさわしい方を選出いただけていると期待しています。

さて、晩秋に入ってもお天気や気温は落ち着きませんが、「秋の日はつるべ落とし」と言います。最近では17時前に外はすっかり暗くなっています。皆さま、体調を崩しかねないのでお風邪などひかれませんように。



病院機能評価受審

受審日 4/25, 4/26, 4/27

10/4「一般病院3」認定！



プライドを取り戻し、
女子医大ブランドの復活を！

病院機能評価推進部(内線:30185)



(出口香緒利)